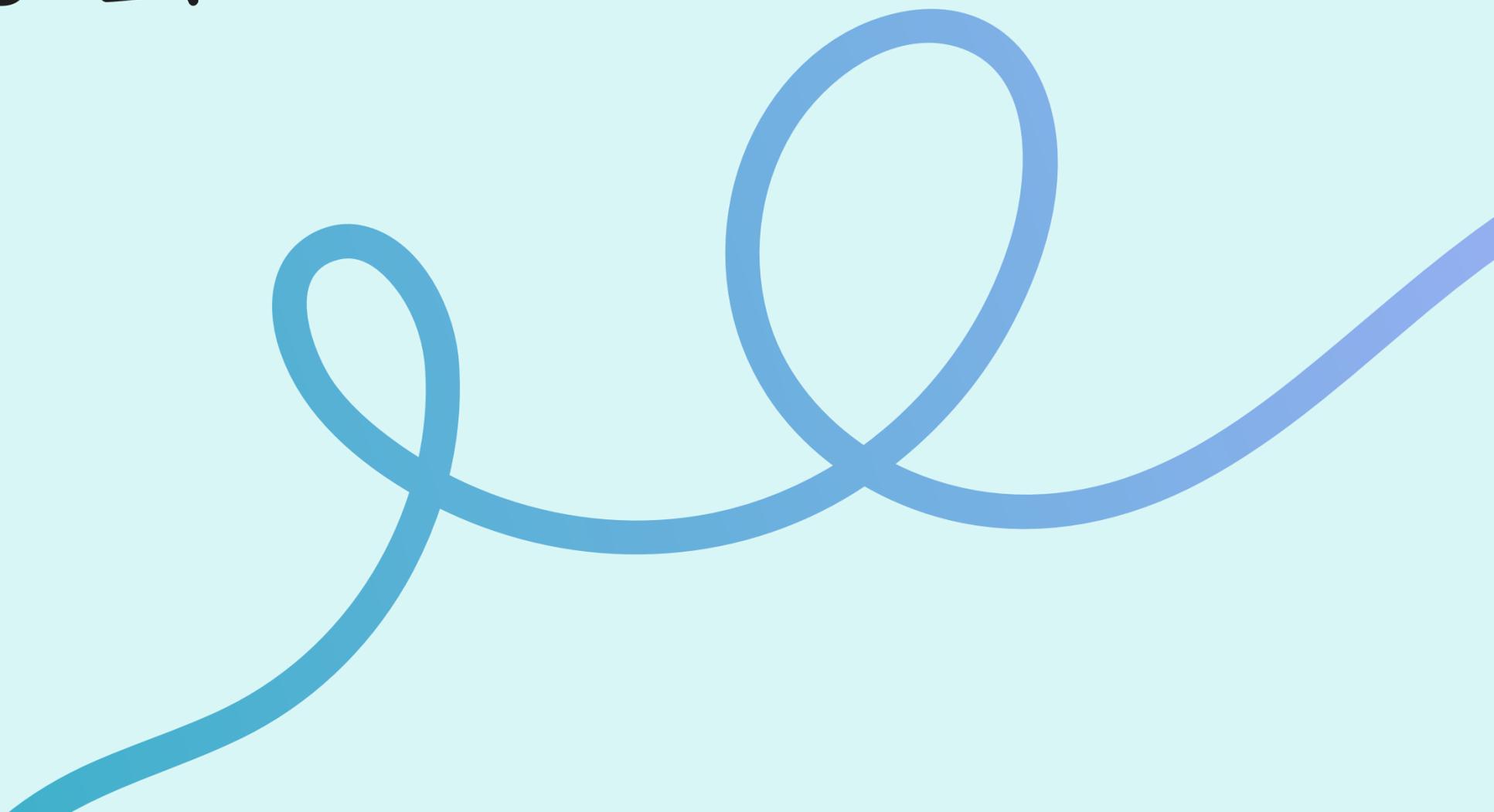


沖縄県ケアマネ協会 沖縄市支部 研修

ICF事例検討会

2024年7月19日



本日の流れ

- 01 自己紹介
- 02 ICF・事例検討会についておさらい
- 03 休憩
- 04 ICF事例検討会の説明
- 05 各グループの手立ての発表
- 06 事例提出者・参加者からの感想

ICF（国際機能分類）とは？

ICF（国際生活機能分類）とは、人間のあらゆる健康状態に関係した生活機能状態から、その人を取り巻く社会制度や社会資源までをアルファベットと数字を組み合わせた方式で分類し、表現しようとしたものです。

ICFの目的は、**その人の生きることの全体像を正しく理解すること**です。

健康状態

疾病、ケガ、ストレス、妊娠など

生活機能

生命レベル

生活レベル

人生レベル

心身機能
身体構造

心・体の動き、体の部分

活動

生活行為
【している活動／できる活動】

参加

社会との関わり、
家庭内の役割、仕事など

背景因子

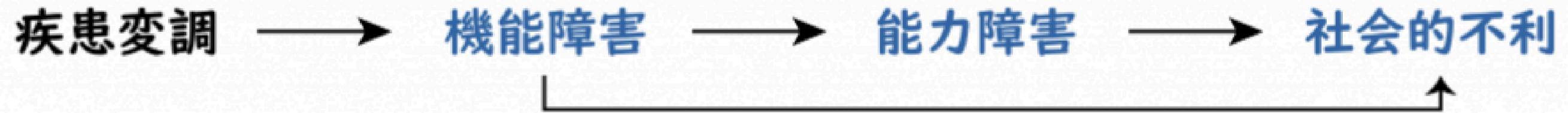
環境因子

物的環境、人的環境、
社会的環境(制度・サービス)

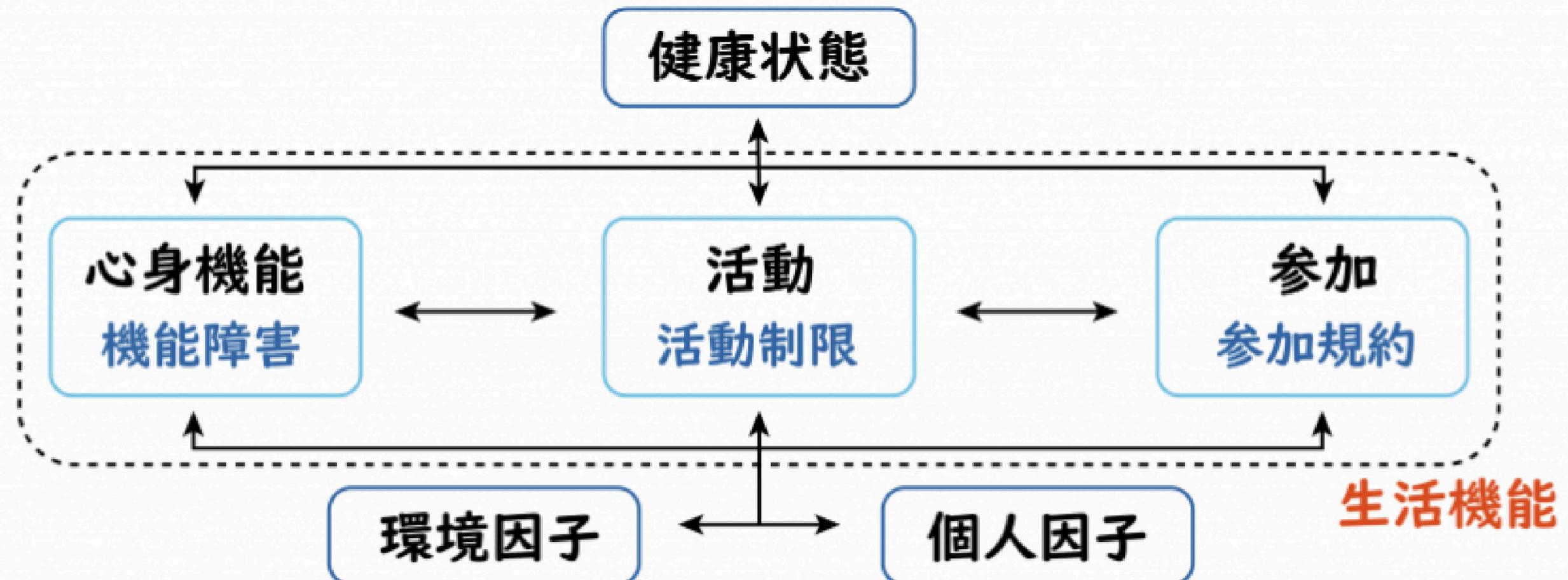
個人因子

年齢、性別、
ライフスタイル、価値観など

ICIDH(国際障害分類) モデル



ICF(国際生活機能分類) モデル



健康状態

健康状態とは、病気や変調、傷害や外傷などの包括的用語です。ストレス、妊娠、加齢、先天性異常、遺伝的素質などを含みます。

《具体例》

- 1年前に脳梗塞を発症。
- 高血圧症



心身機能・身体構造（生命レベル）

心身機能とは、手足の動きや精神の働き、視覚や聴覚、内臓の働きといった**身体系の生理的機能**であり、**心理的機能**も含まれます。

身体構造とは、心臓の一部といった器官、手足の一部といった肢体とその構成部分など、**身体の解剖学的部分**です。

《具体例》

右片麻痺

認知機能の低下（軽度）

外出することが億劫になっている

活動（生活レベル）

活動とは、課題や行為の個人による遂行のことです。
例えば、入浴や排せつ、食事や移動などの生活行為、調理や掃除などの家事行為、職業上の行為、趣味などの余暇活動に必要な行為、趣味、社会生活上必要な行為などです。

また活動を **している活動** と **できる活動** の2つに分けて捉えます。

《具体例》

- 外出する際は、車いすを使用 **している**
- 見守りがあれば、杖を使って10mの歩行 **ができる**

参加（人生レベル）

参加とは、生活・人生場面への関わりのことです。

例えば、スポーツに参加する、地域組織の中で役割を果たす、文化的・政治的・宗教的などの集まりに参加する、親としての家庭内での役割、働くこと、職場での役割などです。

《具体例》

- デイサービスでは、レクリエーションに参加している
- 脳梗塞を発症してからは、囲碁クラブには、通わなくなった

環境因子

環境因子とは、人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境を構成する因子のことです。

《具体例》

- 半年前に家をバリアフリー化した
- デイサービスを利用している
- 息子家族が近所に住んでいて、援助を受けることができる

個人因子

個人因子とは、個人の人生や生活の特別な背景であり、健康状態や健康状況以外のその人の特徴からなります。

例えば、性別、年齢、体力、ライフスタイル、習慣、生育歴、困難への対処方法、社会的背景、職業、過去および現在の経験、全体的な行動様式、性格、個人の心理的資質、その他の特質などです。

《具体例》

- 83歳、男性。妻(75歳)と二人暮らし
- 40年間、料理人として、妻と一緒に定食屋を営んでいた
- 趣味は囲碁

事例検討で得られるもの

- 1、行き詰まり感のある事例を解決するヒントが得られる
- 2、未知の事例に出会う事が出来る（今後に向けた予習）
- 3、アセスメントの視野が広がる
- 4、アセスメント情報の繋げ方がわかる
- 5、『利用者を理解すること』に必要なことがわかる
- 6、自己流の点検が出来る
- 7、自分の力を試す事が出来る。
- 8、一人で抱えているストレスが軽減し、ネットワーク作りに繋がる。



事例検討でのルール

- 1、守秘義務を徹底する
- 2、事例に対して敬意を払う
- 3、事例提供者に支持的態度で臨む
- 4、上下関係を持ち込まない
- 5、自分の体験のみで発言しない
- 6、一人一つの質問を
- 7、指名されたら出来るだけパスをしない
- 8、『手立て』を急がない





休憩

事例検討会が難しい要因

- 1、事例提出者の事前準備が大変
- 2、参加人数に応じて場所の確保が必要
- 3、進行が難しい（進行方法を習う機会がそもそもない）
- 4、事例の肝となるポイントを掴むまでに時間が掛かる
- 5、検討結果の情報を持ち帰りにくい

ICF事例検討会のイイ所

- 1、事例提出者の**事前準備が不要**
- 2、集合・オンラインの**どちらでも開催可能**
- 3、ICFの構図に合わせるので、**進行しやすい**
- 4、ICFの構図を元に見立てるので、**情報が散乱しない**
- 5、PDFとして、**ICFの構図を持ち帰れる**

(**困っているケースを俯瞰で見ることが出来る**)

ケアマネジャーの思い
スタート（困り事）

ゴール（困り事がどうなって欲しい？）

検討して欲しい事

ジェノグラム



健康状態

心身機能・身体構造

活動

参加

環境因子

促進因子

阻害因子

個人因子

性別：

年齢：

要介護度：

本人の思い

家族の思い

検討して欲しい事 『他にサービスはないのか』

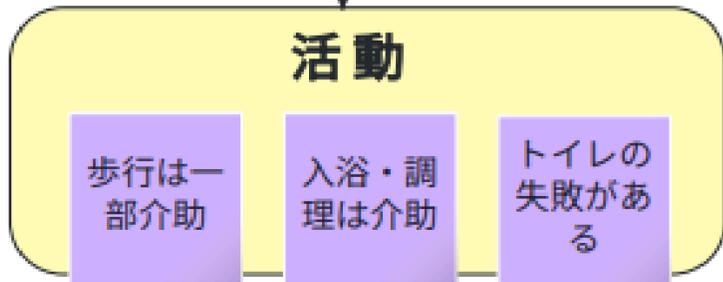
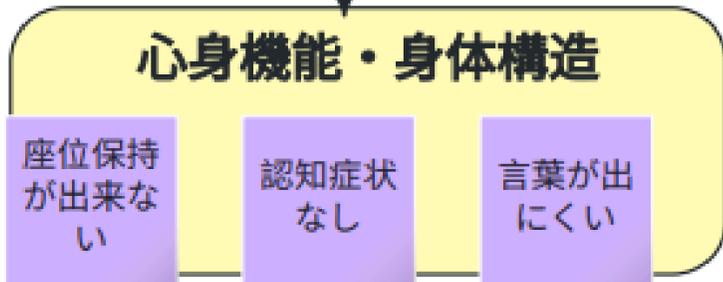
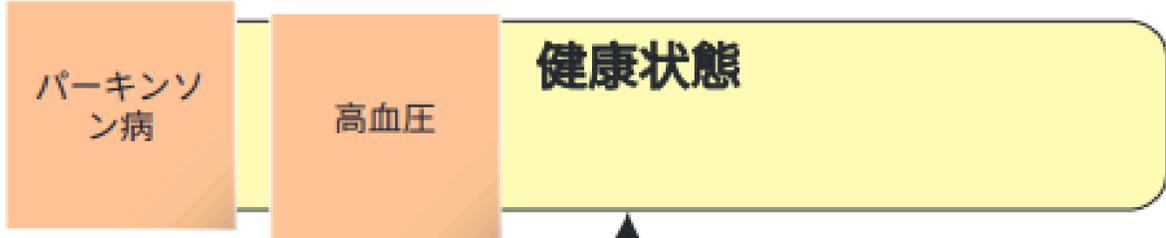
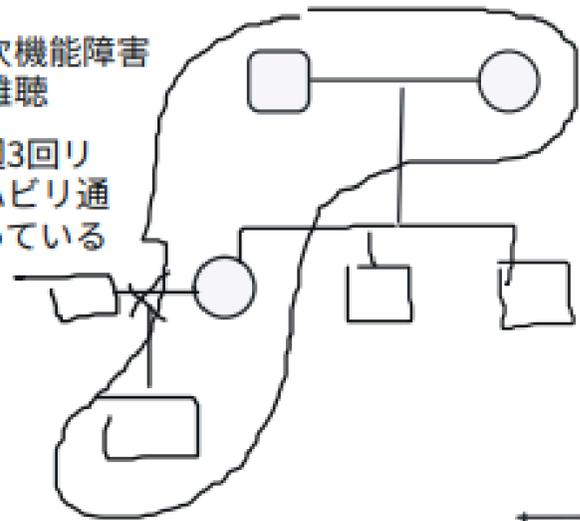
ケアマネの思い
本人が安全に生活を送って欲しい。

娘さんの負担を減らしたい
協力者（息子）を増やしたい

今後、本人がどのような生活を望むのかをヒアリング

高次機能障害
+難聴

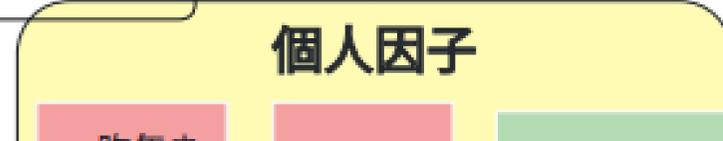
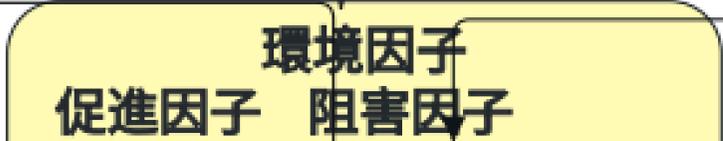
週3回リハビリ通っている



長男：まだ話に出ない
次男：関係性は悪くない
(両者独立している)
市内に住んでいる

食事は娘が準備
昼はパンや弁当

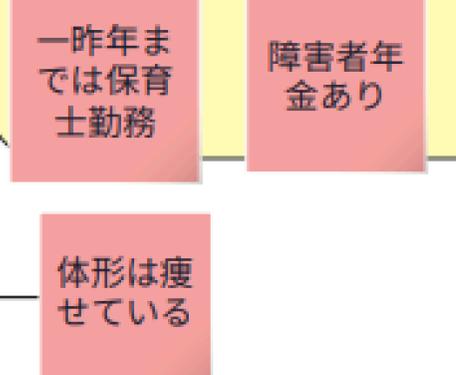
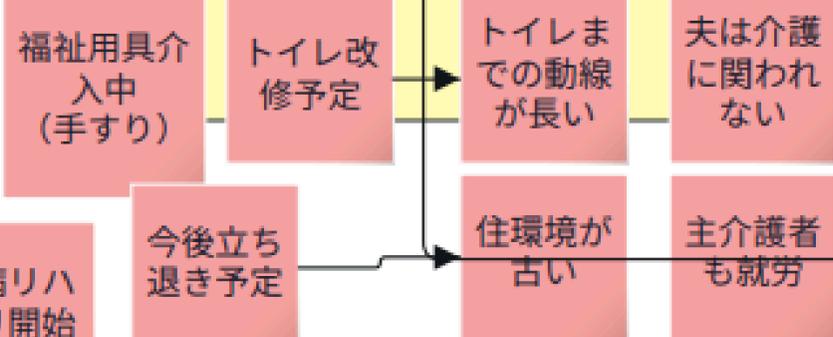
食事姿勢が良くない→
栄養状態不良



本人の思い
リハビリがしたい気持ちがある

家族の思い
安全に過ごして欲しい(平日)

性別：女性
年齢：64歳
要介護度：申請中



難病リハビリ開始

今後立ち退き予定

娘は別居だが、同居中

住環境が古い

金銭面でも不安あり

夫は介護に関われない

体形は痩せている

ICF事例検討会の流れ

1、最初に事例提供者に以下の4つを確認する

(1) 事例テーマ

(2) ケアマネが抱える困り事 (スタート)

(3) 困り事がどうなって欲しいか (ゴール)

(4) 困り事に対する本人・家族の意向

2、事例提供者へ進行者 (大城) が質問を重ね、ICFの図に組み込んでいく

3、ある程度見えてきたら、参加者から1人一つ質問をしてもらう

4、見立て (再アセスメント) が見えてきたら、次に手立てを各グループで検討

※グループのファシリは進行者からチャットでもらったICF図を画面共有し進行



グループ
発表

支部として今後の展開

- ・ 支部会員や包括からの依頼を受けて、集合もしくはZOOMにて事例検討会を開催します。出来たら集合にしましょう！
(プロジェクターやスクリーンが必要な場合には依頼主で準備をお願いします)
- ・ 依頼する際には、事例検討会開催に伴う調整が必要になるので、どなたか担当窓口を決めてご依頼をお願いします。

ご依頼先：ケアプランセンターなないろ（098-923-3363）担当：大城



目的

支部会員のスキルアップ&ネットワーク形成